

地域づくり表彰

RENEW 実行委員会（福井県鯖江市）

ものづくりに触れ、職人を知る、
年に一度の日本最大級の体験型マーケット「RENEW」

RENEW 実行委員会

事務局長

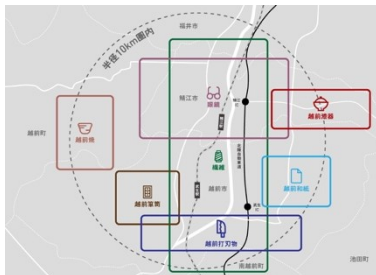
もり かず
森 一貴



1. RENEW 開催地域の概要

RENEW（リニュー）が開催される福井県丹南エリア（鯖江市・越前市・越前町）は、福井県中央部に位置する、人口約 17 万人の地域。

半径 10 km（車で約 40 分）圏内に越前漆器・越前和紙・越前打刀物・越前箆笥・越前焼の 5 つの伝統産業、および眼鏡・繊維の 2 つの地場産業を抱える、全国的にも珍しい「ものづくりのまち」です。



集積する 7 産業

それぞれが特色ある産業を展開しており、例えば、眼鏡では国内メガネフレームの 9 割以上がこのエリアを中心に製造されており、鯖江市では 7 人に 1 人が眼鏡産業に従事しているといわれます。



9 割以上の製造を担う眼鏡フレーム

また、越前漆器は国内の業務用漆器の約 8 割を占めており、旅館やホテルで用いられるお盆やお椀、チェーン店で出てくる味噌汁椀などの多くがこのエリアで製造されています。

ほかにも、越前和紙の産地・今立五箇地区は日本で唯一の「紙の神様」

を祀る大滝神社を擁し、史上初の全国統一紙幣の製造を一手に担ったことで有名です。



地域内では越前漆器の製造が盛ん

2. RENEW の概要

RENEW は、福井県丹南エリア全域を舞台に開催される、持続可能な地域づくりを目指した年に一度の工房開放イベントです。行政区域を超えた 7 産業の産地間ネットワークを形成し、3 日間にわたり工房を一斉開放。工房見学やワークショップを通じて、一般の人々が作り手の想いや背景を知り、技術を体験しながら商品の購入を楽しめる機会を提供しています。



工房見学の様子

その他、まちの特産品を楽しめるフードコートや、お土産ショップ「RENEW ストア」、トークイベントなど、産地全体をまるごと楽しむことができる多彩なコンテンツを来場者に提供しています。

2015 年に、人口約 4,000 人の鯖江市河和田地区からスタートした RENEW。当時は出店者 21 社・来場者 1,200 人という小さな規模でしたが、

現在では出店者は例年約 80 社を数え、来場者数延べ約 3.8 万人、売上約 2,100 万円（2018 年度実績）を記録するに至りました。



まち歩きを楽しむ来場者の様子

3. 持続可能な地域をつくる取組み

RENEW の目的は「持続可能な地域づくり」です。

この目的を定めた背景にあるのは、地場産業の生産額の減少にあります。2015 年頃、産地に徐々に増える若手移住者たちの中に、「50 年、100 年後にも私たちの仕事はあるのだろうか」という危機感が広がっていました。

そこで私たちは、100 年後もこの地域が続いていくために、まずは目の前の地域経済の足腰を固めることが必要だと考えました。

鯖江市河和田地区の越前漆器をはじめ、鯖江市の地場産業の販売不振の原因の一つは、下請主体の業務が中心になり、産地全体のブランド力・発信力に欠けるということ。もう一つは、顧客との接点不足により、顧客目線での商品開発ができていないことであることがわかってきました。

そこで RENEW では、「アウトブランディング」と「インブランディング」と称して、産地の外側・内側両方へのブランディングを実施しています。

アウトブランディングとしては、工房見学やワークショップを通じて、

消費者が実際の産地に訪れ、職人と直接会話する機会を提供。単なる観光客ではなく、産地の真のファンをつくる取組みを試みています。

同時にインナーブランディングとして、産地の職人と実際の消費者とが交流する機会を提供。消費者の生の声を聞くことで、顧客ニーズを汲み取るとともに、産地の職人がものづくりへの誇りを取り戻すきっかけを生み出してきました。



ワークショップを通じて職人と交流

4. 全国に人脈広がる仕組みの構築

2018年と2019年には、全国で社会的意義の高い挑戦を続ける約20社が産地に集う期間限定のマーケット「まち／ひと／しごとーLocalism Expo Fukuiー」を開催。産地の職人が、産地内にいながらにして、最先端の取組みや情報に触れることができる仕組みを構築しました。こうしたつながりから産地と全国各地が接続され、新たな商品開発やコラボレーションなどへとつながっています。



「まち／ひと／しごと」の様子

また、移住・産地就職支援の取組みも実施しています。例年、先輩移住者による地方の暮らしや実際の職人としての働き方を知るトークセッション「移住 EXPO」を開催。2019年からは、実際に産地に訪れ、工房見学ツアーや職人との会話の機会を提供する合同就職説明会「産地の合説」を開催するなど、移住希望者への継続的なアプローチを行っています。

す。

5. 約18店のファクトリーショップ

こうした取組みの結果、この5年の間に、開催地域内に約18店舗のファクトリーショップ(工房併設店舗)が新規開設。通年で見学できる和紙の工房、漆塗りのワークショップを楽しめる施設、漆塗りのレンタルサイクルなどが新たに生まれ、これまで認知度の低かった産地に、観光客が訪れる体制が整ってきました。



産地のおみやげショップ「SAVA!STORE」

また、RENEW や産地の合説などの取組みをきっかけに、10名を超える移住・産地内就職が実現。

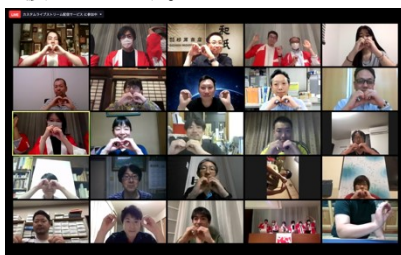
産地全体のデザインリテラシー等も向上し、ロゴやWEBサイト制作、新規商品開発などに着手した例も増えています。



産地の合説の様子

6. 産地DXや商品開発への取組み

2020年には、新型コロナウイルス感染症への対応のため、産地のデジタルトランスフォーメーション(DX)支援を展開。全出展者にオンライン会議ツールを導入したほか、希望者にはオンラインショップの開設を支援しています。



オンライン会議ツールによる会議

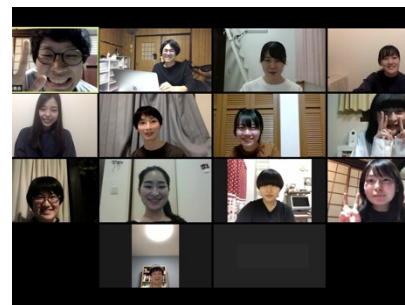
加えて「まち／ひと／しごと」に協力してきた全国各地のデザイナーらと産地の事業者が手を結び、商品開発プロジェクト「RENEW LABORATORY」をスタート。産地に必要な取組みを次々と実現させています。



RENEW LABORATORYの様子

7. サポーターチーム「あかまる隊」

2020年、RENEWでは、RENEWや産地への関わりの余白を広げることを目的に、サポーターチーム「あかまる隊」を創始。県内外の学生や社会人、約30名が集い、職人との交流会や取材記事の作成、産地のPR動画制作など、産地を支える様々な取組みを発案・実施しています。



あかまる隊の様子

今後は、期間限定の産業観光イベントに留まることなく、内容を拡張し、通年型産業観光や地域教育・福祉、雇用創出などに取り組みながら、「持続可能な地域づくり」を実現させていきます。